

平成30年度 自己点検・自己評価結果概要

1. 自己点検・自己評価の取り組み

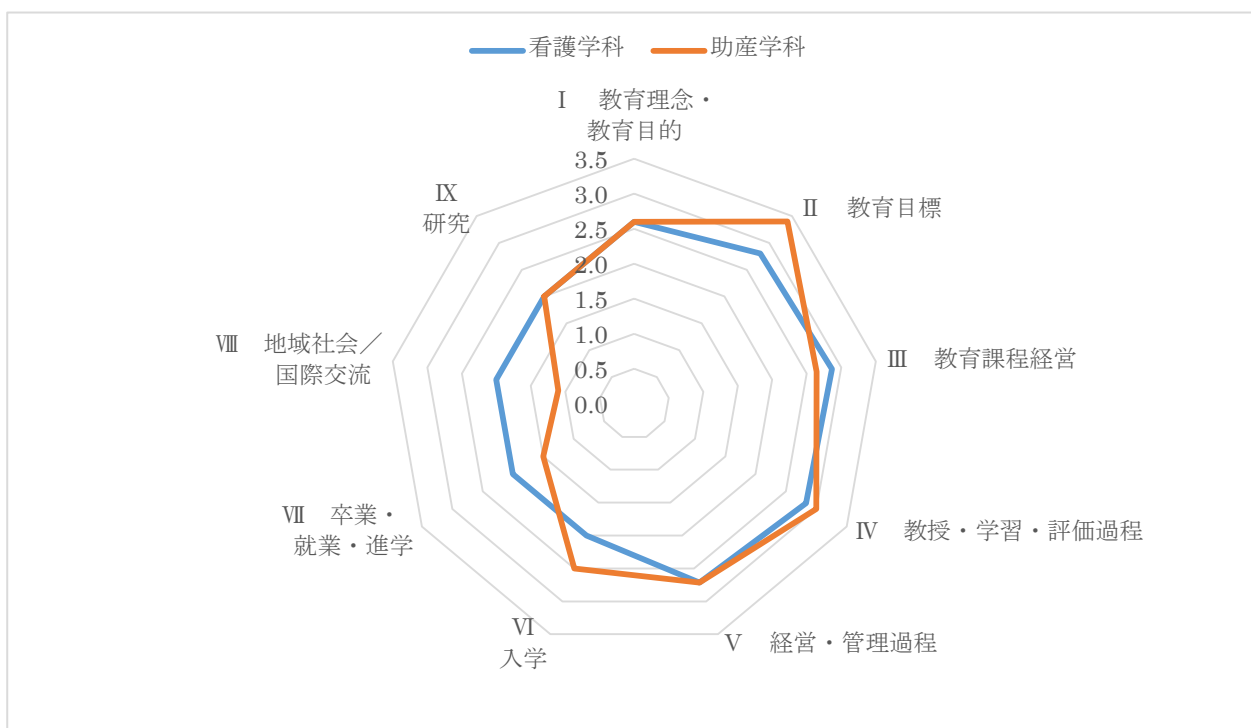
本校は、教育研究の高度化及び活性化を図るため、教育研究状況について自己点検・自己評価を行いました。平成30年度の点検評価について結果及び今後の課題を公表します。

2. 方法

「看護師等養成所の教育活動などに関する自己評価指針作成検討会」報告書を活用し、9分野のカテゴリー（67項目）のうちⅠ・Ⅱ・Ⅸについては自己点検自己評価委員が、Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷは各学科の教員、Ⅴは事務部が点検評価を行いました。67項目については、4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切を尺度とし、課題と今後の改善方策について考察しています。

3. 結果

<分野別平均点>



看護学科

カテゴリー	分析・課題
I 教育理念・教育目的 2.6点	教育理念・教育目的の表現が抽象的なため教育理念・教育目的に自校の特徴や具体的な内容を明記できるよう検討する。また、卒業時にどのような資質を有するべきか明記されていないため、どのような力を身につけた者に卒業を認定するか、ディプロマ・ポリシーを検討する。
II 教育目標 2.8点	卒業後の継続教育を踏まえた看護基礎教育としての目標設定が明記されていないため、卒業後の継続教育の考え方を明記し、それを踏まえた上で卒業時の到達目標を設定する。
III 教育課程経営	教育理念に「看護実践能力」「豊かな人間性」としているため、その概念

2. 9点	<p>について教員間での共通認識を全体会議でさらに深めていく。</p> <p>教員の授業準備の時間確保が課題であり、実習指導体制を整え、教員が学内で授業準備ができる時間を確保していく。</p> <p>学生が関係する自己の安全対策は、個人の振り返りと実習グループのカンファレンスのみでは不十分である。インシデント事例基準とその対策マニュアルの作成していく。</p>
IV 教授・学習・ 評価過程 2. 8点	<p>他の授業との重複・関連については、担当者間で協議できているところもあるが十分とは言えないため、マトリクスの作成を検討する。</p> <p>授業の評価は、学生のアンケート結果を踏まえて行っているが、次年度にどのように活かしたか、評価と計画を関連させていく。また、授業アンケートの3つの自由設問(空白)に自身の授業目標についての質問を記入し、授業評価に活用する。</p>
V 経営・管理過程 2. 7点	<p>全体会議にて教職員の情報共有の場としているが、教職員の意思や考え方が十分に反映できていない部分もあるため、教員が運営へ参画をできるように、議題提案を促していく。</p> <p>学校概要、教育状況、学生支援状況、学校の財務などホームページへ開示する。</p>
VI 入学 2点	<p>入学生確保のための高校訪問を2回実施し、受験者の状況とニーズを把握している。アドミッションポリシーから入学者選抜の方法を変更したので、今後その妥当性を検討していく。</p>
VII 卒業・就業・進学 2点	<p>就職先との情報交換の体制が十分とは言えない。卒業生の活動状況の把握とその体制づくりを検討する。</p> <p>2018年度卒業生のカミングホーム実施時にカリキュラム評価のアンケートを実施する。</p>
VIII 地域社会/国際交流 2点	<p>ボランティア活動の依頼に対しては、学生に紹介し参加できているが、今後もボランティア活動の情報提供を積極的に学生へ行っていく。また、1年生には認知症サポーター講座受講を教科外活動として計画する。</p>
IX 研究 2点	<p>時間的な保証が難しい状況であるが、研究の必要性は認識している。</p> <p>研究活動をサポートするアドバイザーを検討する。</p>

助産学科

カテゴリー	分析・課題
I 教育理念・教育目的 2. 6点	<p>理念の内容は看護者に求められる能力や性質を表しており法との整合性はあるが、本校の特徴を示しているとは言えない。この地域で本校がどのような立ち位置で助産師養成を担うのか再検討の必要がある。</p>
II 教育目標 2. 8点	<p>教育内容を網羅した目標として示しているが、教育目標の到達レベルが現状の教育内容や方法で可能なのか見直し、到達のレベルを表現する。</p>
III 教育課程経営 2. 9点	<p>8期生までの到達状況やカリキュラム進行状況から基礎助産学の内容と時間数が不足している。カリキュラム改正に関する情報収集をしながら、現在の教育内容と科目構成についての問題点を整理する。</p>

IV 教授・学習・ 評価過程 2. 8点	科目間の関連は確認しながら進めているものの、より具体的に考え方が明示されるよう検討していく。 根拠に基づいたカリキュラムの一貫性のある評価計画を立てることが重要であり、現在の評価方法の問題点を整理し、できる科目から評価方法を変更する。
V 経営・管理過程 2. 7点	全体会議にて教職員の情報共有の場としているが、教職員の意思や考え方が十分に反映できていない部分もあるため、教員が運営へ参画をできるよう、議題提案を促していく。 学校概要、教育状況、学生支援状況、学校の財務などホームページへ開示する。
VI 入学 2点	入学者の推移と選抜方法との関連性については、その都度検討しているが、今後は計画的な検証のための枠組みを検討していく。
VII 卒業・就業・進学 2点	卒業生の離職等の問題点を明確にするために、カリキュラム評価を行う。
VIII 地域社会/国際交流 1. 1点	地域に暮らす生活者（母子や家族）を援助する助産師を育てるためには、学校が積極的に地域貢献できる活動を企画し、学生が参加できる機会を設ける。
IX 研究 2点	時間的な保証が難しい状況であるが、研究の必要性は認識している。 研究活動をサポートするアドバイザーを検討する。

本校では、平成17年より授業評価を行っています。

授業評価は、実施した授業について学生にアンケートを行い、授業内容の改善など質的向上に活かしています。

質問項目は13項目（詳細は下記参照）、質問項目に対し「とてもそう思う」を4、「そう思う」を3、「どちらともいえない」を2、「そう思わない」を1、とし4段階の評定尺度で得点化して評価をしました。

〔質問項目〕

- 1 あなた自身の授業への取り組みについて
 - Q1 この授業には興味を持っていた
 - Q2 この授業には積極的に参加した
 - Q3 この授業には集中した
- 2 教員の授業の進め方について
 - Q4 この授業は、時間・内容の配分が良く、授業の構成がよかった
 - Q5 教員の説明は、具体的でわかりやすかった
 - Q6 教員の声は聞き取りやすかった
 - Q7 教員は、学生の理解度を確認しながら授業を進めていた
 - Q8 教員は、学生が質問しやすい雰囲気、答えも丁寧であった
 - Q9 使用した教材教具は、授業の理解に役立った
- 3 授業内容は理解できた
 - Q10 授業内容は理解できた
 - Q11 この授業で新しい知識を得ることができた
 - Q12 この授業は興味・関心が深まる内容だった
- 4 総合評価
 - Q13 全体としてこの授業を受けてよかった

下記のグラフは、平成30年度に学生が授業に対し評価したものです。看護学科は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野ごとに平均値をグラフ化したものです。助産学科は、全体の平均値をグラフ化しています。

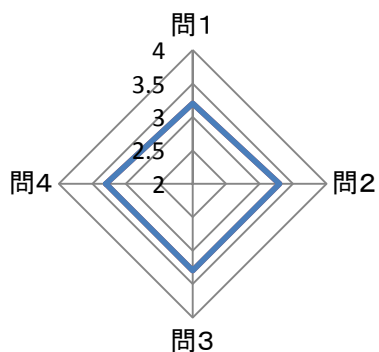
授業アンケート結果【平成30年度】

4段階評価「とてもそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」の平均を示している

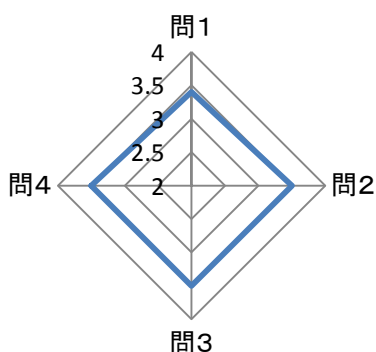
問1. あなた自身の授業への取り組みについて(3項目)
問2. 教員の授業の進め方について(6項目)
問3. 授業の内容について(3項目)
問4. 総合評価

看護学科

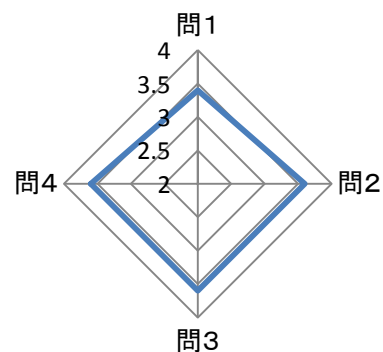
基礎分野



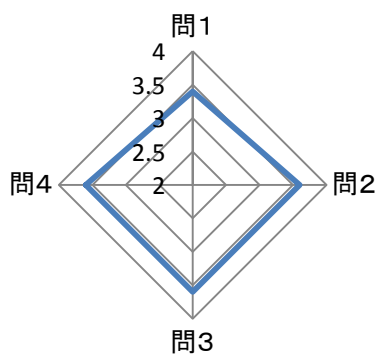
専門基礎分野



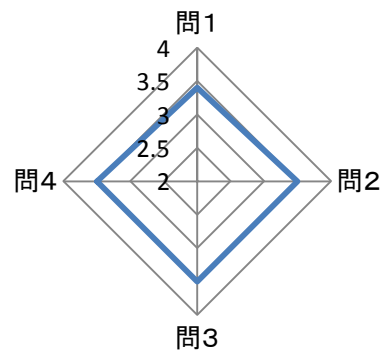
専門分野 I



専門分野 II



統合分野



助産学科

